

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902660		
法人名	有限会社 こばやしさんち		
事業所名	グループホーム こばやしさんち		
所在地	旭川市東光16条6丁目2番19号 (電話) 0166-33-4852		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月16日

【情報提供票より】 (平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	13 人	常勤	9人, 非常勤 4人, 常勤換算5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	個室 25,000円	その他の経費(月額)	公益費(水道光熱)20,000円
	2人部屋 40,000円		暖房費(10~5月) 6,000円 雑費 1,000円
敷金	有()円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(3月26日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	83歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北彩都病院・鈴木歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、幅広く介護事業を展開する運営法人が平成18年に開設した1ユニット定員6名の小規模ホームです。道路を挟んだ向かいにデイサービスやフリーハウスが建てられており、連携をとりながら運営されています。隣に中学校や近くに商店があるなど、住宅街の中で普通の生活が実感できる立地条件が整っています。利用者の表情も明るく職員との会話やスキンシップ、利用者同士の会話も多く和やかな雰囲気です。日帰り温泉などの外出行事やイベントを計画し、利用者の生活に潤いや楽しみを提供しています。法人代表や管理者の指導のもとで、全職員が協働し、利用者本意のサービス提供が行なわれ、人間愛に満ちたアットホームなグループホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で示された改善事項については、職員全員のミーティングによって検討しながら即改善可能な項目は早急に取り組みなど、積極的な取り組みが行なわれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成に当たっては、管理者を始めとする一部の職員により作成されています。全ての職員が参加して各項目に係わる気付きを持ち寄りなど、具体的な改善に向けて検討を重ね、より良いサービス提供への取り組みを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の方々や家族を交えた運営推進会議を開催し、内容的にも適切な報告や参加者からの貴重な意見や協力依頼など幅広い協議がされ、ホーム運営の理解が深まりつつあります。今後は、会議での貴重な意見などを生かすため、2ヵ月毎の開催を定例化し、サービス向上に生かされるよう期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時に家族と気軽に意見・要望を話せる雰囲気作りに努めており、家族から意見や要望がでた際には、迅速に話し合いケアに反映させています。家族への個別の報告を工夫し、利用者の暮らしや健康状態など家族が知りたい点を考慮した細かな情報提供を期待します。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内行事や清掃活動、地域の祭事などに職員や利用者とともに積極的に参加しています。散歩の時のあいさつや、近隣住民からの差し入れ、ボランティアとして送迎をして頂くなど自然な形で地域の人達と顔なじみの関係作りがされています。運営推進会議を通じ、ホームの地域での役割や啓発、地域貢献など今後の活動を期待いたします。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域性を活かし安心した生活を支えるためのホーム独自の理念を職員全員で作りにあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がホームの見やすいところに明示され、全職員に浸透している。また、法人代表や管理者の日常的な指導のもとで、全職員は、理念の本質を理解し共有を図り、日々のケアサービスの提供が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動、地域の行事や祭事などに職員や利用者とともに積極的に参加している。また、近隣の中学校の合唱部やマンドリンクラブの演奏会の開催や保育園児の来訪、また近隣住民から差し入れを頂いたり、散歩時に声を掛けて頂くなど、自然な形で地域の人達と顔なじみの関係作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解し、前回外部評価の改善課題は全職員で話し合いがもたれ改善に向けた取り組みが行なわれている。今回の自己評価は全職員で取り組まれておらず、また、見出された課題の具体的な話し合いも行なわれていない。	○	自己評価作成には全職員が参画することで、意識合わせ、ケアの振り返りなどが可能となるため、自己評価のねらいや活用方法を理解し、また改善への取り組みには改善計画シートを利用するなど、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待する。

旭川市 グループホーム こばやしさんち

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や、家族を交えた運営推進会議を開催し、内容的にも適切な報告や地域の方々の貴重な意見や協力依頼など幅広い協議がされ、ホーム運営の理解が深まりつつあるが、4ヵ月ごとの開催となっている。	○	会議での貴重な意見などを生かすため、2ヵ月毎の開催を定例化することが望ましく、また、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含めながら、改善経過のモニター役を担ってもらうなど、サービス向上に生かされるよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や会議など積極的に参加し、事業所としての係わりや相談などは行なっているが、市担当者とともにサービスの質の向上に取り組む状態には至っていない。	○	市担当者とは、ホームの実態を共有し実状に即した協働体制を作りあげるために、積極的な情報提供をし、関係作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、訪問できない家族には電話で伝えている。金銭出納簿は家族の訪問時に明細を明らかにし、家族の了解を得ている。4ヵ月毎に「こばやしさんちたより」を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えているが、行事予定や職員の異動、利用者一人ひとりの暮らしの様子や健康状態などは報告されていない。	○	家族との信頼や協力関係を築くためには、きめ細かいやりとりは不可欠であるため、ホーム内での暮らしぶりやエピソード、健康状態など、家族が知りたい点を考慮しながら、ホーム独自の報告方法を工夫し、定期的または一人ひとりに応じた情報提供を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見や要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議に家族が多数出席し意見や要望を発言する場面を設けている。意見や要望に対し、迅速に話し合いが持たれ、ケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。法人内の異動はないが、止むを得ず異動があった際は、運営者が中心となり職員配置に考慮し利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。運営者及び管理者は職員への精神的フォローにも力を入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成の重要性を認識しており、職員一人ひとりの知識や経験に応じた研修に参加する機会を設けており職員は積極的に受講している。受講後の内容報告の場もあり、共有できる体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者及び管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行っているが、近隣のグループホームとの直接的な交流は行なわれていない。	○	事業所全体で話し合い、重要性を把握したうえで、ほかのグループホームとの交流を図る機会を設け、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人が運営しているデイサービスや、フリーハウスからの入居が多く、職員との顔なじみの関係の中でのサービス開始となっている。初めてのサービス利用者には、時間的配慮も行ないながら、急ぐことなく利用者とのなじみの関係を構築し、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や、得意なことを見極め、役割作りの支援が行なわれている。また、利用者から昔の話や料理を教わったり、励まされたり労らってもらいなど、ともに支え合う関係作りが築かれている。また、「介護する人・される人」の枠を越えて喜怒哀楽をともにし、絆を大切にケアが実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	デイサービスからの移行による利用者が多いため、生活歴や健康の状態など多くの面で把握されており、職員は利用者との過ごし方をゆったりとしており、また退屈感のない支え合いを基調とした関係作りが行なわれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、状況把握に全職員で係わり、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。また、家族や利用者本人の思いや意向を取り入れ、職員が意見をだし合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態に変化が生じた場合、本人・家族と話し合い、掛り付け医とも相談しながら現状に即した見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況に応じ受診の支援、買物や外出、日帰り温泉など、ホームで行なえるサービスを柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や、利用者の掛り付け医療機関とも連携を密にし支援を行っており、職員が通院介助をした際は受診結果などを記録し、家族に伝えている。看護師が常勤しており、利用者、家族、職員は健康面についても気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に関する指針を明示し、同意書が整備されている。家族や利用者の意向も尊重しながら医療機関とも相談し、対処する予定であるが、職員間での具体的な方針などについての話し合いを行なうまでには至っていない。	○	重度化や終末期に際してのあり方は、ホームを中心にできるだけ早い時期から利用者、家族、医師等で対応の確認が必要であり、ホームが対応しうる最大の支援の具体的方策について早い時期の検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。利用者一人ひとりの写真などの使用は、利用者及び家族の了解が得られている。また、記録などの管理も十分に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切に、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ席に着き、会話を誘導するなど和やかな食事の支援が行なわれている。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと・関心のあることを把握し、楽しみながら支援されている。利用者同士の助け合う姿や気を使いあう場面などがみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や入浴日が一応定められているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるよう対応されている。また健康状態に合わせてシャワー浴や足浴などの支援も行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付け、後片付けなど得意なことを活かした支援や、生活歴を活かした役割・レクリエーションなどの楽しみごとなど、利用者が日々の暮らしに張り合いや喜びを見出せるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、天候や利用者の希望に応じて身近な散歩やドライブ、また戸外行事などの外出支援を行なっている。また、ホームの前に置かれた戸外のベンチで日光浴やお茶、会話などを日常的に楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム こばやしさんち

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練、また、利用者も参加した防災レクリエーションも実施し不測に備えているが、近隣の人々との協力体制や緊急災害に備えた物品の備蓄がされていない。	○	職員が少ない夜間帯は、地域住民の協力が不可欠であるため、普段から地域の理解と協力を得るなど、夜間を想定した避難訓練などで不測に備える取り組みが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は手狭な感じはするが、馴染みやすく安堵感を感じさせ、また利用者にとっては生活リハビリの空間となっている。リビングの大きな窓から見える風景は、地域の生活や季節感が感じられる。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、生活用品を持ち込み家庭の延長的雰囲気の中で清潔で安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。